

関連団体資料 19

(2020 年度)

団体名称	築理会 (創立 1983 年)		
代表者	佐野 吉彦 / E-mail		
	卒業	1979 年	工学部 建築 学科
事務局	栢木 まどか / E-mail		
	卒業	1999 年	工学部 建築 学科
団体構成	工学部一部建築学科ならびに二部建築学科の卒業生全員(構成員 約8000 名)		
役員会等	開催	10 回/年	備考: 常任幹事会が役員会に該当。定例総会は5月(2020年度は8月開催)。
会費	会費	3500 円/年	備考: 初年度割引、卒後30年会員は会費一括払の終身会員制度あり。
会報誌等	発行	2 回/年	備考: 現状で4500部送付。その他HP、FBページ、メルマガと内容連動。
団体活動の報告	(活動方針) 「つなぐ場所、築理会」をテーマとし、企画総務委員会、情報・広報委員会、会員ネットワーク委員会、活性化委員会、建築学科への協力委員会を置き、3本の柱を立て活動を推進。:①会員相互の交流を活発化する/②会員の活動を支援し、「理科大建築」のプレゼンスを拡大する/③建築学科と連携して教育貢献する 媒体は会報・ホームページ・FACEBOOK・メルマガを使った多様で双方向のコミュニケーション。加えて2020年は、オンラインを活かした企画、委員会活動加わる。学科と連携企画のOB/OGと語る会(11月)、卒業設計・論文優秀者を表彰する築理会賞選考会(2月)もオンラインで例年通り実施。		
	(2020年度活動状況) ◇会に対しては、どの世代にも居心地の良い会が期待されている。一方で、会員相互の情報交換の場としての同窓会、会員が社会に向けてアピールするときに「背中を押す」積極的な同窓会活動への期待もある。◇2020年のオンライン中心の活動は大きなチャレンジだったが、新たなつながりが増えたのは幸い。今後も上掲メディアをさらに活用し、活動情報をていねいに伝える必要がある。それを会費納入増・参加促進につなげたい。◇オンラインをうまく力にする「同窓会の未来形」を考える。会員各自の時間の制約や関心に合わせ、気軽に参加できる行事やセミナーの開催をもっと企画したい。今年計画している名簿発行は、紙媒体から電子媒体への転換を検討する。		
	(2021年度計画) 活動の方針は継続する。一方で中期を見据えて、リアルとオンラインの両方を力にする「同窓会の未来形」を目指してゆく。財政と運営基盤を強化し、会員データベースを再構築し、多様な世代の会員が自らの時間に合わせて参加できるよう、またそれぞれの活動をバックアップできるよう、委員会活動・行事・セミナーの開催を活発化する。		



www.chikurikai.org/ www.facebook.com/chikurikai

2020年の動き

- ・卒業生は1部55期+2部41期で、築理会員はあわせて8000人超
- ・活動方針「つなぐ場所、築理会」：
 - ①会員相互の交流を活発化する
 - ②会員の活動を支援し、「理科大建築」のプレゼンスを拡大する
 - ③建築学科と連携して教育貢献する
- ・会報・ホームページ・FACEBOOK・メルマガを使った多様で双方向のコミュニケーション
- ・2020年は、オンラインを活かした企画、委員会活動と、参加の広がりが始まった



見えてきた課題

- 会の活動目的については、どの世代にも居心地の良い会が期待されている。その一方で、会員相互の情報交換の場としての同窓会、会員が社会に向けてアピールするときに「背中を押す」積極的な同窓会活動への期待もある。
- この1年ほど、築理会の活動はオンライン中心。それは大きなチャレンジだったが、新たなつながりが増えたのは幸이었다。今後も、会報やメルマガ、フェイスブックやホームページなどをさらに活用し、活動情報をていねいに伝える必要がある。それを会費納入増・参加促進につなげたい。
- オンラインをうまく力にする「同窓会の未来形」が求められている。会員各自の時間の制約や関心に合わせ、気軽に参加できる行事やセミナーの開催をもっと企画したい。
- それとともに、今年計画している名簿発行についても、紙媒体から電子媒体への転換を見据えてゆきたい。

工学部建築学科、野田建築会との連携企画



(左) 恒例「卒業生と語る」企画
(中) 「卒業設計作品集」への協力
(下) 「築理会賞」の授与

